

..... 編集後記 .....

◆ 青葉茂る6月です。先月にはミャンマーでの大洪水、中国四川省での大地震と、自然災害が続いて起これ、本稿準備中には被害の全容はまだ不明ですが、せめて二次災害を軽減できるよう、日本も含め迅速な支援が望まれます。さて、今月は皆様から頂いた多岐にわたる個人投稿による構成となっています。

◆ 初めは、茂野氏による簡易数値モデルと数値シミュレーションを応用した近畿地方の高温温泉の研究の話題ですが、2回に分けて今回は日本周辺の深部震源の分布との対応を検討した結果の報告です。地形・地質・震源分布・温泉データ・熱流量・火山分布などの地球科学情報の電子化が進み、一方、それを図化表示・計算処理することも大分容易になりました。ここではプレートテクトニクス理論に基づく数値モデルを作成し、シミュレーションを行って地下の状態や動きを可視化して、直感的にも理解しやすく紹介しています。大きな研究ですが、モデルやシミュレーションへの理解も深まりますので、じっくりお読み下さい。本題である近畿地方の高温温泉の検討結果は、次回のお楽しみということで・・・

◆ 続いて、太田氏ほかはGISと統計学を利用してデータ解析をより客観的・科学的に判断する解析法の紹介をしています。元素の分布を示す地球化学図では、自然由来のバックグラウンド濃度としての解釈が必要で、地質図や鉱床図などと目で見比べることによって定性的に説明されてきました。分析手法の一つである「蛍光分析」をもじって「傾向分析」などと洒落て言ったものですが、ここで紹介する手法はより客観性を持ちしかも定量的に判断する科学的手法です。具体的にいくつかの例を詳しく説明していますので、お読み下さい。

◆ 引き続いて太田氏ほかは、地球化学図における元素濃度変動のメカニズムやその存在形態を解明するための逐次溶解法による研究を紹介しています。重金属類では、特にその形態によって環境に対する影響の程度が異なるため、その形態把握は有害性評価において非常に重要です。環境評価の課題が明確になって、環境への関心が一層高まる気がします。

◆ 石と言えば、「石頭」のごとき硬いものというイメージが強いのですが、逆に軟らかい石として、須藤氏は印材に使用されるろう石や滑石等の特徴や産地等を紹介しています。小・中学校の美術教材にも使用されるようですので、一読してご家庭でうんちくを披露し、親の株を上げるのも良いかも知れません。

◆ 続いて、須藤・有田氏による「砂と砂浜の地域誌」の15回目です。今回は九州北東部の響灘・玄界灘沿いの海岸です。巡検で海岸を見学しているかのようで、読んでいて楽しいものです。海岸の景色・砂の顔つきも変化に富んでいて、見ても飽きません。気楽に読めますので、ご一読をお勧めいたします。

◆ 高橋氏による地質関係の海外情報は、前回は2007年秋の話題でしたので、今回は冬の話です。火山・津波・酸性雨等、地質災害の軽減に関する記事が多かったようです。先月の自然災害にも思いを馳せながら、「民主化と自然災害」という興味深くかつ普段気付かない視点からの記事等の紹介をお読み下さい。

◆ 最後は、佐藤氏と小松原氏による書評・新刊紹介です。奇しくも火山・津波の関連書となりました。

◆ 来月号も一般投稿が続きます。バラエティに富んだ多くの投稿文をお待ちしております。(金井 豊)

地質ニュース編集委員会

委員長：金井 豊

事務局委員：宮内 渉

委員：藤原 治・杉原光彦・高木哲一・森尻理恵・七山 太・酒井 彰・高橋裕平

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754 Fax. 029-861-3746

E-mail: g-news@m.aist.go.jp

地質ニュース	第646号	2008年	6月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費		
2008年6月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951 Fax. (03) 3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		



表紙右下のロゴについて：地質調査総合センターは、国際惑星地球年（IYPE）に賛同し、活動を支援しています。

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

●地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

©2008 Geological Survey of Japan